

2017年度 第1回日本肺高血圧・肺循環学会 理事会 議事録

日時：2017/4/15（土曜）13～14時50分

場所：東京国際フォーラム G404

出席理事：巽浩一郎、伊藤正明、江本憲昭、桑名正隆、佐藤徹、下川宏明、瀧原圭子、伊達洋至、谷口博之、土井庄三郎、西村正治、福田恵一、松原広己、室原豊明、山田秀裕、渡邊裕司

欠席理事：伊藤浩、荻野均、佐地勉、中西宣文、吉田俊治

議題

1. 理事選任に関して

2016.9.30の理事会にて、未決であった現職理事退任時の、新理事選任に関して討議した。領域（循環器、呼吸器、膠原病、小児、外科、基礎）別に話し合いにて理事を選出していくことを確認した。なお、新理事の選出に関しては、原則退任理事を除く理事継続の先生方で話し合うことにした。循環器内科関係の理事選出に関しては、次回の理事会前に会合を持ち話合うことにした。各領域からの推薦理事を、理事会にて承認するのが望ましいとした。

2. 2016年度 第1回日本肺高血圧・肺循環学会報告（佐藤徹 会長）

第1回学術総会を京王プラザホテルで開催し（テーマ：世界に発信する日本の肺高血圧診療）、大盛況にて終了した。一般演題134題と多数の演題を頂いた。医師565名、コメディカル44名、学生33名、会長招宴14名と多数の参加者をいただき、4会場での運営が適切であった。総収入33,532,200円、総支出25,805,739円、学会返金7,726,461円であった。

3. 学会会員数、会員管理

2017年3月31日（2016年度の年度末）において、総会員数342名となった。今後、さらなる学術委員会、教育委員会などの活動を含めて、適正な学会活動を図る必要がある。

4. 2016年度会計報告

2016年度は医学教育事業助成500万円があり、肺高血圧症に関する医学教育事業の基盤を作成した。学会として、学会HP構築、メール配信システムの構築などを行った。学会員からの年会費、日本肺高血圧学会からの繰越金は、ほぼそのまま繰り越すことになった。八巻賞に関して、八巻重雄先生からご寄付1,000万円を含み、繰越金が18,348,873円となった。なお、この収支には佐藤徹会長からの学会返金は含まれていない。

5. ^{せいたい}青黛を摂取している患者における肺動脈性肺高血圧症に関する実態調査

慶應義塾大学消化器内科 金井隆典教授より

「青黛の健康被害、有害事象の実態調査と病態関与に関する特別研究」を厚労省からの依頼により立ち上げることになった。

慶應義塾大学消化器内科 長沼誠先生、国際医療福祉大学三田病院循環器内科 田村雄一先生より第2回日本肺高血圧・肺循環学会で特別報告の予定とした。

6. 厚労省医政局経済課、保険局医療課へ

松原 広己先生のご尽力により、カネカメディクス冠動脈カテーテルの早期適用拡大要望書提出を学会から厚労省へ行い、認可された。CTEPH に呈する BPA 機材の保険承認を頂いた。

7. 2017 年度 第 2 回日本肺高血圧・肺循環学会 準備状況 (西村正治 会長)

日本らしさの発見、学際的統合そして発信

2017 年 6 月 2 日 (金曜) ~ 3 日 (土曜) 開催場所: ホテルさっぽろ芸文館

会 長: 西村正治 (北海道大学大学院医学研究科 呼吸器内科学分野)

副会長: 渥美達也 (北海道大学大学院医学研究科 免疫、代謝内科学分野)、

長谷部直幸 (旭川医科大学 循環・呼吸・神経病態内科学分野)

事務局: 辻野一三 (北海道大学大学院医学研究科 呼吸器内科学分野)

2017 年 6 月 17 日 (土曜) 医療関係者/市民公開講座 砂防会館

息切れを感じているあなた、「肺高血圧」でも起こるって知っていますか?

司会: 須田 理香 (千葉大学)

- | | |
|-----------------------|-----------------|
| 1. ヒトはなぜ「息切れ」を感じるか? | 西村正治 (北海道大学) |
| 2. 呼吸器の病気「肺高血圧」 | 巽浩一郎 (千葉大学) |
| 3. 「肺高血圧」の治療で息切れが楽になる | 田村雄一 (国際医療福祉大学) |
| 4. 患者から見た「肺高血圧」 | 山本理加 (肺高血圧患者会) |

8. 2018 年度 第 3 回日本肺高血圧・肺循環学会 準備状況 (瀧原圭子 会長)

会 長: 瀧原圭子

副会長: 中西宣文 (南大阪病院 循環器内科)、小垣滋豊 (大阪大学小児科学)

2018 年 6 月 22 日~23 日、於: 千里ライフサイエンスセンター

ほぼ同じ大きさの 4 会場を確保するために、会場の変更を行った。

9. 2019 年度 第 4 回日本肺高血圧・肺循環学会 準備状況 (渡邊裕司 会長)

会 長: 渡邊裕司

2019 年 6 月 7 日~8 日

6 月の第一週は、日本循環器学会地方会の開催が予定されているので、日程に関して再検討することになった。

10. 肺高血圧症関係レジストリー検討委員会 (渡邊裕司 委員長)

2016 年 12 月 21 日、2017 年 4 月 13 日に委員会を開催

学会レジストリーに関して

レジストリー管理者ではなく、登録する側の先生方にメリットのあるレジストリー構築が必要である。レジストリーデータを論文化する時の、Authorship に関して、あらかじめ規則を作っておく必要がある。これまでのレジストリーデータに関しては、担当者が論文として纏める予定とする。レジストリー統合による Retrospective なデータ解析による論文の作成はしない。今後の

Prospective study の reference になると思われる。

レジストリー構築の基本骨格（システム）に関して、JAPHRおよびJRPHSは、東京大学の品質管理理学講座にデータサーバーを置いている。学会レジストリーが統一された場合には、これを使用する。

学会の財政が安定していないが、学会がレジストリーをサポートしていく必要がある。

I群, V群（PAH）

II群（左心不全に伴うPH）

III群（呼吸器疾患に伴うPHないしはPAH）（JRPHS）、

IV群（CTEPH）と4群に分ける。

それぞれの群により、どの項目をレジストリーとして残すか、採用するかを考慮する。

入力の手間の問題があるので、必要最小限データの収集を原則とする。

しかし、項目があまりにも少なすぎるとデータ比較が難しくなる。

III群（呼吸器疾患に伴うPHないしはPAH）（JRPHS）は、現状のまま。

小児肺高血圧症のレジストリーを新たに作成する予定とする。土井庄三郎先生が、福島裕之先生（慶応義塾小児科）と連絡をとって頂くことになった。

11. 理事会、評議員会のお知らせ

2017年度 第2回日本肺高血圧・肺循環学会 理事会、評議員会

6月1日（木曜）16~16:30 理事会 芸文館3F 蓬莱の間

6月1日（木曜）16:30~18 評議員会 芸文館3F 瑞雪の間

参加予定人数：日本肺高血圧・肺循環学会評議員、理事 60名

プログラム 日本肺高血圧・肺循環学会統一レジストリーを目指して

司会：渡邊裕司（浜松医科大学臨床薬理学）

巽浩一郎（千葉大学大学院医学研究院呼吸器内科学）

プレゼンター

1. 日本肺循環学会での多施設登録研究 15分

杉村宏一郎（東北大学大学院医学系研究科循環器内科学）

2. JAPHR (Japan Pulmonary Hypertension Registry) 15分

田村雄一（国際医療福祉大学三田病院心臓血管センター/ 肺高血圧症センター）

3. 総合討論

12. 八巻賞選考委員会（下川宏明 委員長）

八巻賞選考委員会が4月15日に開催され、東北大学循環器内科の佐藤公雄先生が、2017年度の受賞に決定したとの報告が委員長よりあった。

選考委員会での点数付けを参考にして、選考委員会にて議論をし、肺高血圧症における新規病因蛋白（サイクロフィリンA）に着目して、創薬研究を継続してきた業績が評価された。

選考に関する申し合わせの 応募資格に関して、

4) 他の学会賞への応募と重複しないこと、は削除することとした。

5) 未受賞の研究内容を対象とする。国内外問わず既に受賞した研究内容と同一内容では応募できない。に変更することにした。

2018 年度「八巻賞」選考委員長は下川宏明先生に決定した。

また、選考委員に関して、選考委員長は除き、二年連続選考委員は務められない。とした。
次回の 6 月の理事会にて、下川宏明委員長より 2018 年度の選考委員を公表して頂くことにした。

13. 学会奨励賞選考委員会（谷口博之 委員長）

学会奨励賞選考委員会において、選考に関する申し合わせの応募資格に関して、議論があった。
選考に関する申し合わせの 応募資格に関して、

4) 他の学会賞への応募と重複しないこと、は削除することとした。

2017年度の選考に関しては、委員長である谷口博之先生に一任とした。

14. YIA 選考委員会（西村正治 会長）

昨年の理事会にて、YIA は基礎系と臨床系に分けて審査をしてはどうかという意見があった。
実際、採点してみると圧倒的に基礎系の応募演題の評価が高く、基礎系、臨床系に分けて選考する方が良いのではないかと考えられた。

採点結果を参考にして、当日の発表演題を基礎系から 4 題、臨床系から 4 題を選出した。

いずれも次点とは 1 点しか差異がない。

当日はこの中から発表内容等を加味してそれぞれ最優秀演題、優秀演題を 1 題ずつ基礎系と臨床系に分けて選出することにした。

15. 学術委員会（福田恵一 委員長）

学会員が 342 名と少なく、財政的基盤が弱い学会では、学会雑誌の発刊は財政をさらに弱くすることが危惧される。次回の理事会までに検討してみる。

学会運営強化のためには、専門医認定も一つの方法である。

16. 肺高血圧症関係の診療ガイドライン COI 委員会（江本憲昭 委員長）

日本医学会から厳格な診療ガイドライン COI に関する提案があるが、これはまだすべての学会で承認されたわけではない。重要なことは、きちんと COI を開示して、学会として説明責任を果たすことである。Common disease と希少疾患では、診療ガイドライン委員に関する考え方は異なっても良いのではないか。

PVOD/PCH の診療ガイドラインは幸い有効な薬物治療はないので、COI は大きな問題にはならないかもしれない。肺高血圧症全体と考えると COI が生じる可能性はある。

17. GSK 医学教育事業助成

医学教育ないしは学会としてコメディカル、国民に対する啓蒙活動、教育のためには、教育委員会を設定して、活動をしていく必要がある。教育委員会を立ち上げることにした。

2017 年度 GSK 医学教育事業助成に応募する予定とする。